

## 令和5年度秋期 情報処理安全確保支援士試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT人材教育研究部 2023,12,22

10月8日（日）に行われた令和5年度秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、情報処理安全確保支援士試験の分析コメントをお知らせします。

### ■情報処理安全確保支援士試験（SC）

〔令和5年度秋期 情報処理安全確保支援士試験 統計情報〕

応募者	20,432 人
受験者	14,964 人
合格者	3,284 人
合格率	21.9%

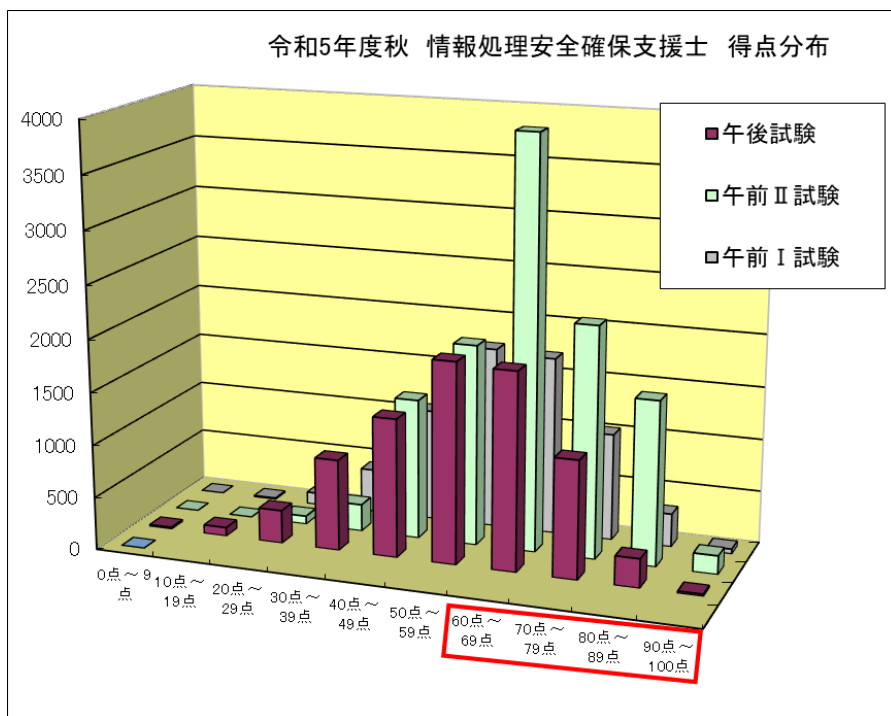
平成29年春期から始まった情報処理安全確保支援士試験（旧情報セキュリティスペシャリスト試験）は、今回（令和5年度秋）から午後Ⅰ、午後Ⅱ試験が一つの午後試験に統合されました。今回の合格率は21.9%で前回の19.7%から上がり、平成21年以降実施されてきた試験の中では最も高い合格率でした。受験者の負担が軽減された結果と考えられます。

発表された得点分布の分析とグラフを示します。

〔令和5年度秋期 情報処理安全確保支援士試験 得点分布〕

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後試験	合格者
0点～9点	1	1	17	
10点～19点	13	1	82	
20点～29点	114	77	316	
30点～39点	417	258	867	
40点～49点	1,068	1,337	1,317	
50点～59点	1,733	1,911	1,905	
60点～69点	1,695	3,895	1,873	
70点～79点	1,021	2,198	1,118	
80点～89点	316	1,561	274	
90点～100点	45	176	19	
計	6,423	11,415	7,788	3,284
対前試験比率		177.7%	68.2%	42.2%
午前Ⅰ免除者（概数）	8,541	57.1%		

合格者数	3,284	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ60点以上合計	3,077	47.9%	-207
午前Ⅱ60点以上合計	7,830	68.6%	4,546
午後60点以上合計	3,284	42.2%	0



午前 I 試験免除対象の人は増える傾向がありますが、得点分布の結果を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で8,541人 (57.1%) いて、受験者の半数を超える人が午前 II からの受験となっています。この午前 I 試験で基準点60点以上取ることができた人は3,077人 (受験者の47.9%) で前回から約3%下がっています。半数以上の人が通過できていないことになり、このうち、50点~59点のあと一步の人が1,733人 (27.0%) もいることから、出題範囲が非常に広い午前 I 試験対策は早めに計画を立て、確実に進める必要があるといえます。

午前 II 試験で基準点以上の人7,830人 (受験者の68.6%) で、前回の80.3%からかなり減っています。正確な知識が求められる問題が何問もあり、全体に少し難しい問題が増えたことが要因と思われます。

従来の午後 I・午後 II が一つに統合され、今回初めて実施された午後試験は、基準点 (60点) 以上取れた人は合格者数である3,284人 (42.2%) でした。今回の午後試験の採点者数は7,788人で、前回の午後 II 試験の採点者数4,161人からかなり増えています。この結果、問題を解く負荷が減ったことと相まって、平成21年以降で最も高い合格率になったと考えられます。

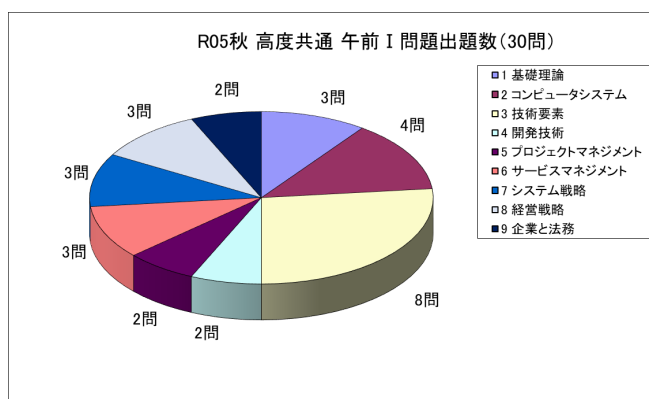
## ■ 令和5年度秋期 情報処理安全確保支援士試験の出題内容について

### (午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題))

高度試験で共通して出される午前 I 試験の30問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) の午前試験80問の中から選ばれていて、テクノロジー系17問 (57%)、マネジメント系5問 (17%)、ストラテジ系8問 (26%) という出題比率です。

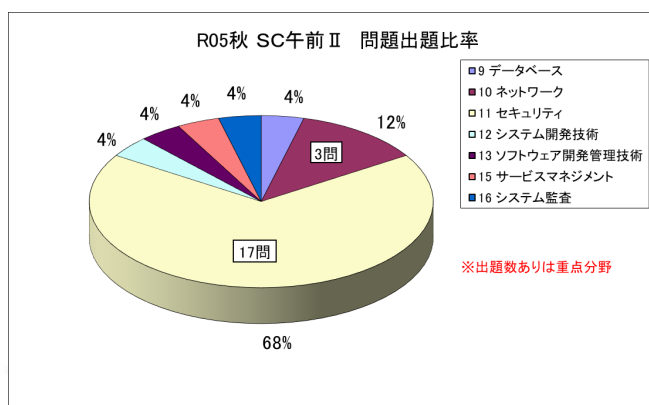
午前 I 試験には免除制度がありますが、高度試験の約4~5割の人が午前 I 試験から受験しています。この中で60点以上の得点で午前 II 試験の採点に進む人は5~6割で、出題範囲が広いと試験問題を難しく感じる人が結構多いといえます。問題が難しいときには4割程度の人しか通過できないときもあったので、最初の午前 I 試験でつまづかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識をつけていく必要があります。

- ・今回の午前Ⅰ試験の内容は、約6割が過去問題でしたが、定番問題が減り、少し難しい問題が多かったといえます。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ4問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は5問で前回の3問から増えています。



### 〔午前Ⅱ試験（専門知識問題）〕

午前Ⅱ試験は基本的な問題が多く、セキュリティとネットワークの専門知識の出題数はそれぞれ17問と3問の合計20問で前回と同じです。新傾向問題は6問（前回は7問）、過去問題は従来と同じで約7割ありました。全体として難しい問題は少なかったといえます。



過去の情報処理安全確保支援士試験問題の出題は11問ありました（前回13問から減）が複数年度の過去問題から分散して出題されました。ネットワークスペシャリスト試験の過去問題は今回1問ありました（前回なし、前々回6問）。

### 〔午後試験〕

今回からの新しい午後試験では、150分の解答時間で、4問出題のうち2問を解答する方式に変わりました。1問の解答にかけられる時間が伸びたので受験者負荷の軽減になりました。一方、出題内容はWebアプリケーションプログラムの開発（問1）、セキュリティ対策の見直し（問2）、継続的インテグレーションサービスのセキュリティ（問3）、リスクアセスメント（問4）と幅広いものでしたが、問1と問4は限定されたテーマに特化されていて、問題選択の自由度は限定されていたといえます。問題文の量は1問あたり4～8ページで、従来の午後Ⅰと午後Ⅱ問題の中間といえる量でした。

新しい形式になった午後試験で合格基準点をクリアするためには、情報セキュリティ全般に関する知識を十分に身に付けた上で、問題文に記述された内容をよく読んで、本文や図、表に記述された条件などを丁寧に整理し、設問で問われていることを的確に把握したうえで解答を作成していくことが必要です。形式は変わりましたが、過去に出題された午後Ⅰや午後Ⅱ問題と問われる内容は同じなので、演習問題として活用し、解答作成のコツをつかむようにしてください。